

事業を契機に農地集積と多品目通年型の大規模経営を確立

国営総合農地防災事業及び関連事業により排水改良が行われ、湛水被害への懸念がなくなったことから生産規模の拡大を図り、多品目栽培による作業量の平準化と大型機械の導入による効率化により、大規模多品目通年栽培に取り組んでいます。



国営かんがい排水事業 「渡良瀬川沿岸地区」昭和46～59年度

関係市町：受益面積：9,790ha
群馬県太田市ほか3市3町
栃木県足利市、栃木市
概要：農業用水の合理的、高度利用を図るため、取水施設や用水路を整備

国営総合農地防災事業 「渡良瀬川中央地区」平成12～22年度

関係市町：群馬県太田市ほか3市3町
栃木県足利市、栃木市
受益面積：9,400ha
概要：農地の湛水被害を防ぐため、排水機場の改修、排水路の拡幅や新設、遊水池の設置



木村 正道
【群馬県太田市】

経営面積：31ha
主要作物：かんしょ苗、ごぼう、ほうれんそう、
ねぎ、だいこん、スイートコーン
労働力：自家労働5名、常時雇用13名、
臨時雇用80人

借地による規模拡大

農地防災事業実施前の平成11年は4.5haでかんしょ苗の施設栽培を主体に営農していました。農地防災事業により湛水被害の懸念がなくなったことから、高齢化により空いたビニールハウスやほ場を積極的に借地して生産規模の拡大を図り、平成29年には31haで多品目の野菜を栽培しています。

木村氏の大規模経営に触発され、他の担い手も規模拡大に取り組んでいます。その結果、高齢化等による離農も進んでいますが、排水性が改良され、畑地かんがい設備が整った優良農地が遊休農地化することなく担い手に集積されています。



収穫を待つごぼう

大型機械による効率化

大規模経営を行うに当たり、効率的に作業を進めるため、ごぼうやスイートコーンの収穫機、選別機など、多様な農機具を積極的に導入しています。

トラクター等の免許が必要なものは、後継者を中心に家族で行ってますが、近所の方にオペレーターを依頼することもあります。そのため、若手雇用者の免許取得をサポートし、オペレーターとして活躍してもらっています。



選別作業

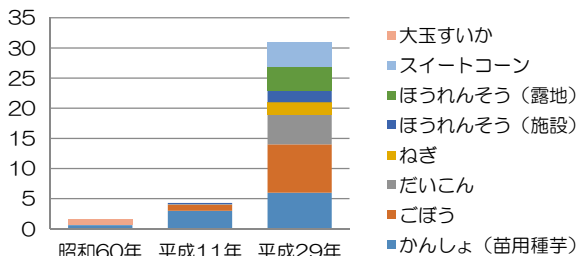


ごぼう専用収穫機

多品目栽培の導入

平成11年は5名を雇用していたものの農閑期は休んでもらっていましたが、従業員から年間を通した雇用の希望がありました。そこで、露地や施設野菜を複数導入した作付計画を立てることで、年間の作業量を平準化し、現在は13名を通年で雇用しています。

現在ハウスでは、かんしょ苗を主体に、利用していない期間にほうれんそうを作付けしていますが、雇用をより安定させるために棟数を増やすことを検討しています。



品目別作付面積推移 (ha)

人を大切に経営



トラクターを運転する後継者

家族経営協定の締結を契機に、かんしょ苗の農繁期を除いた日曜日は忙しくても休むことにしました。作業が追いつくか不安もありましたが、雇用者も定期的に休養を取り、体調を整えることで作業効率の向上が図られました。

大規模経営ながらアットホームな農場を次世代に残すべく、今年一年間をかけて経営移譲する予定です。かつては作付計画等を一人で検討してきましたが、今は後継者と相談しながら決めています。後継者は地域の若手農業者と情報交換しながら、新規作物の提案などを行っています。農外から農業を目指す若者の雇用の受け皿となっており、次世代の育成に貢献しています。